

回想分析を用いた旧街道型細街路の街路イメージの比較*

土地利用状況の異なる旧街道型細街路を事例として

Comparison of the street image in the old high streets by Using Analysis of Memories *

亀谷一洋**・山中英生***

By Kazuhiro KAMETANI**・Hideo YAMANAKA***

1. はじめに

現在のまちづくりにおいては、ハード、ソフトにかかわらず、対象地域で生活している住民の意見を聞くことは重要な意味合いを持っている。今日、住民の意見聴取の方法としてはアンケート調査が一般に用いられているが、表層的意見の収集にとどまることが多い。一方、ワークショップではグループダイナミクスを用いた効果的な意見収集が試みられているがその体系的分析方法は確立していない。本研究では、街路計画での沿線住民の参加型手法として回想分析を用いて、街路の設計に活かす情報を収集するという質的調査の開発とその有効性を明らかにすることを目的としている。具体的には、旧街道型細街路の再生計画を時間軸という概念を用いた回想分析手法を用い、インタビュー形式のヒアリングにより、なくなってしまった過去のイメージを記録し、オーラルヒストリーを分析することから街路再生コンセプトを抽出する。

街路のイメージに関する研究は、安藤ら¹⁾が、さまざまな街路を事例に、そのコンピューター・グラフィックスを用いてのイメージの定量化をおこなっている。平野ら²⁾は、繁華街での街路イメージの類型を明らかにしているが、旧道再生に関する研究事例は少ない。

本研究では、住居系旧街道型細街路として徳島県徳島市上佐古通りと商店街系旧街道型細街路として徳島県羽ノ浦町商店街を事例として、回想分析法を用いて、旧街道型細街路利用者が持つ旧街道型細街

*キーワード：地区交通計画、市民参加、イメージ分析

**正員、工博、徳島市役所開発部公園緑地課

(徳島市幸町2丁目5番地、
TEL088-621-5295、FAX088-621-5273)

***正員、工博、徳島大学工学部建設工学科

(徳島市南常三島町2丁目1番地、
TEL088-656-7578、FAX088-656-7579)

路の街路イメージの分析とその比較をおこなう。

2. 回想分析

(1) 個別ヒアリング

今回、沿線住民に対して個別インタビューによるヒアリングを行い、回想分析をおこなった。この手法は、幅広い人達の意見を聞くことはできないが、被験者の意見を時間をかけて聞き取ることができ、詳細について追問することができる手法である。回想分析とは、今までの日々の生活において、前の道路で思い出す楽しかった(よい)イメージ、わるいイメージを被験者1人1人に個別インタビューし、その要素と連関を分析する方法で、臨床心理で用いられる重要事項分析の手法を道のイメージ抽出に改良したものである。インタビューの手順を以下に記す。

- 1) 被験者に「家の前の道で思い出す、よいイメージ、わるいイメージの出来事や体験したことを何でも自由にお話ください。」と問いかける。そして発言内容の時代や被験者の気持ちを確認するため、「それはいつの話ですか。」とか「そのときあなたはどう思いましたか。」などの質問をさみながら、その時の道路状況を具体的に話させ、イメージの年代を確認する。
- 2) 引き続き、「他に家の前の道で思い出す、よいイメージ、わるいイメージの出来事や体験したことはありませんか。」と問いかけ、そのイメージの年代を確認する。被験者に自由に話をしてもらうことを目的とし、インタビューは、聞き手に徹して、時代や道路状況を確認する問いかけのみを行うように注意し、この問いかけを繰り返し行う。

(2) イメージラダーでの分析

次に発言項目の内容を分解し、D.N.Hinkelによって開発されたラダーリング技法³⁾を参考に以下の方法でイメージラダーを作成した。

たとえば、「家の前の道路で思い出すよいイメージ、わるいイメージの出来事や体験を何でも自由にお話ください。」との問いかけに対して、たとえば、「夏祭りに人がたくさん来てくれて楽しかった。」という発言が場合は、まず現場で、「それはいつ頃の話ですか。」とその年代を確認する。

次に発言を「夏祭り」、「人がたくさん来てくれた」、「楽しかった」に分ける。

そして全体の概念である「夏祭り」を上位項目に、具体内容としての「人がたくさん来てくれた」を下位項目として配置し図上では矢印で示す。そして、「楽しかった」はよいイメージに分類する。図では、わるいイメージのみ印で表している。これを時間軸上に配置する。この作業を、繰り返し行うという手法である。

3. 回想分析からみる上佐古通りの街路イメージの抽出

(1) 上佐古通りの現況

調査対象は徳島市中心より西2kmに位置する佐古地区にある。国道192号線の1つ南側にある旧街道型細街路である。江戸時代から街並みは格子状に構成されていたが、昭和28年に国道が整備され現在の形となっている。



図 - 1 対象区域図

上佐古通りは、延長約1,250m、幅員7.8mの徳島駅方面への一方通行道路である。沿線は住宅地で住居は106棟、商店は69棟である。平日12時間交通量は約1,400台である。



写真 1 上佐古通り現況

(2) 実験方法

上佐古通り沿線住民に対して、インタビュー形式によるヒアリングを行い、上佐古通りに関するイメージ把握を試みた。対象被験者は、60～80歳代の男性3名、女性3名である。インタビューは、平成15年8月～11月にかけて行い、状況については、テープに録音している。インタビュー1人あたりの所要時間は、特に決めていなかったが、実際には、20分から1時間程度であった。

(3) 回想分析による上佐古通りのイメージ抽出

図-2は回想分析の結果である。

これより以下のことがわかる。

上佐古通り沿線の被験者たちは、少年、少女期に夜店や屋台などが出ていたことを、覚えていて、それをよいイメージとして持っている。

被験者の年代がよく似ていることもあるが、昭和初期から昭和20年代まで道路上で多くの遊びを自分たちがやっていたことがわかる。

終戦直後は、戦後の苦しい生活の状況や仕事関連の風景を街路イメージとして持っている。

琴の音や駅の灯りなど、物質社会とは違った次元の風情が街路上に醸し出されていた可能性がある。人や物にはない街路の雰囲気ともいえるものが戦後しばらくはあったのではないだろうか。しかし最近では、これが騒音になっている。

子供が少なくなって街路上で子供を見かけることはほとんどなく、そのことが街路の雰囲気にも影響が出ていることがいえる。

年代	キーワード	発言内容			
		遊び(子供たち)	交通	生活	風景、風情
昭和初期		周りに空き地が多かった(2) ↳ かくれんぼをした ↳ 鬼ごっこをした バイ(こま), メンコ(5) ↳ メンコに油を塗って重くした 夜店がでていた(2) ↳ 親から5銭もらって買いにいった 夏は夕方行水して、みんなで集まった ↳ 一脚が出ていた 露店でバットライスを売っていた 自転車に乗る練習をした 自家製のバット, ボールで野球をした ↳ ホームランを打った	子供の時, バンという音に馬車の馬が驚くことを見るのが楽しかった		琴の音が聞こえた
昭和20年頃		釘立て遊びをした けんかの時に投げつけた	土の路面だった 馬車が走っていた(5) ↳ 馬糞があった 西へ行く馬車が多かった ↳ 荷台は空が多かった ↳ 阿南市から馬車で来ていた 自動車交通であぶないと思ったことはない 駐車禁止がなくて, 路駐が多かった	道路脇の溝に稲を植えていた ↳ 生活が苦しかった ↳ 雀が米のとぎ汁によってきた 畳表の天日干しをしているのを見た ↳ 風が吹いて畳表が溝に落ちた 家庭菜園に使った	徳島駅の灯りが見えた 普段の買い物は歩いていった(2)
昭和30年頃 ~ 昭和60年代		子供が通学するときの音が聞こえた	大雨で道路が冠水した(3) ↳ 床下浸水までで止まった		馬が道路脇の家の塀から首を出していた
平成		子供が遊んでいるのを見かけない(3) 学校へ通う通学風景を見るのが楽しみ ()は発言した人数を表す はわるいイメージを示す	交通事故があった ↳ 長靴が店の中まで飛んできた 不法駐車 交差点での一時停止違反 日が暮れてから歩いている人が多い	町内会世帯数よりマンション軒の世帯数が多い ↳ 夜間に騒がしい時がある	

図 2 上佐古通りイメージラダ - 図

被験者の方が雑談で話していたが、その人の町内会は、子供会は3人だけで、79歳以上の敬老会の案内を出すのは16人となっている。少子高齢化の影響は、沿道利用者が感じる旧街道型細街路の街路イメージにも大きな変化を与えている。

4. 旧街道型商店街との街路イメージの比較

(1) 羽ノ浦町商店街

次に回想分析を用いた商業系旧街道型細街路における街路再生コンセプトの抽出事例⁴⁾との比較分析を行った。

羽ノ浦町は、徳島県の南部に位置し、県都徳島市から南に約15kmの距離にある、面積8.9km²、人口約12,000人の町である。

羽ノ浦町商店街は、羽ノ浦町の中心部に位置する延長約800m、幅員6~10mの旧国道沿いに発展した旧街道商店街で、古くは土佐街道として徳島県と高知県を結ぶ幹線街道上にあった。昭和初期には、一部道路の両側に幅2~3mの用水が流れていたが、

昭和7年頃から順次、蓋がかけられ、昭和27年頃に商店街部分は全線蓋がかけられ、現在の道路断面形状が形成された。さらに、昭和44年に商店街を迂回する国道バイパスが完成し、旧街道は県道となる。現在、商店数は43店舗、民家は37軒、その他3軒となっている。被験者は、住民8名を対象で、50代から80代の男性7名、女性1名である。ヒアリングの詳細については参考文献4)に詳説しているため、ここでは省略する。

(2) イメージラダ - 図の比較

それぞれの路線でインタビューに応じてくれた被験者の年齢層が似通っていることに着目し、2つのイメージラダ - 図を比較分析する。

この2つのイメージラダ - 図を年代別に重ね合わせて、2つのイメージラダ - 図に共通にあるイメージと独自にあるイメージに分類した。また、上佐古通り、羽ノ浦町商店街それぞれの街路でしか発言されていない内容であっても、被験者の内容が明らかに2つの街路に共通にあるイメージについては中間

表 - 1 2つの旧街道型細街路の街路イメージの共通性と独自性

年代	街路イメージ	共通性	中間イメージ	独自性	
				上佐古通り (旧街道型細街路)	羽ノ浦町商店街 (旧街道商店街)
昭和初期	一脚(縁台)の思い出 周りに空き地が多かった 馬車が走っていた		こま、メンコをした 夜店が出ていた 露店が出ていた	自転車に乗る練習をした 野球をした	駅への玄関口だった 農作物の集配地
昭和20年頃				夏の祭水	バスが通っていた
昭和30年頃			買い物は歩いて行った	道路わきに稲を植えていた 曇表の天日干し 徳島駅の灯りが見えた	交通量が多い 商店が多かった 通行人が多かった
平成		路上駐車が多い	子供の通学の声 路上駐車多い 交通事故を見かけた 子供が遊んでいる のを見かけない	夜間に騒がしい	

イメージの欄に書き込んだ(昭和30年頃の路上駐車など)。その結果を表-1示す。

(3) 旧街道型細街路の共通イメージと独自性

表-1より、沿線住民が持っている旧街道型細街路の街路イメージは、共通のイメージと地域の独自性のイメージがあることがわかる。

共通のイメージは社会の流れに応じて、人々の生活習慣や共通の文化から生まれてきた行動形式に伴う街路イメージで、ここでは、まだ自動車の少なかった時代に夕方になると近所の人たちや、行水を終えた子供達が溜まり場となっている家の前の一脚を囲んで一日の出来事やご近所のことを話し合ったり、遊んだりしている情景がこれにあたる。

このような情景はさらに歴史性、幹線性を持っている旧街道型細街路独自のもの、その時代にどこの街路や路地裏でも見られた情景とに分類することも可能である。荷物を積んだ馬車に関するイメージなどは当時幹線機能を持っていた旧街道型細街路ならではの街路イメージといえる。また、今日では、路上駐車や交通事故の問題など、交通安全に対する発言が多かったことも両街道に共通している。

地域独自の街路イメージを比較すると、住居系の旧街道型細街路と商業系の旧街道商店街では被験者が持つ街路イメージに違いがあることがわかる。

住居系の旧街道型細街路である上佐古通りは、自転に乗る練習をしたり、野球をして遊んだりという街路で場所をとる遊びをしたイメージを持っている。また、夜は静かであったのか、琴の音が聞こえたり、中心市街地の徳島駅の灯りが見えたという風情なイメージも持ち合わせている。

一方、旧街道商店街の羽ノ浦町商店街では、街路に平行して流れていた用水路で遊んだイメージが強く残っていて、上佐古通りのように街路で場所をと

る遊びをした経験に関する発言は得られなかった。また、古くからの商店街らしく、夏祭りの思い出や、早くからバスが通っていたイメージは商店街の活気があった時の時期とも重なって、被験者の持つ街路イメージを鮮明にしているといえる。

5. 結論

回想分析法を用いて沿線住民にヒアリングを行い、その結果をラダー構造で表現することにより、沿線住民の持つ旧街道型細街路に対する意識を図上に表すことができた。また、土地利用形態の異なる旧街道型細街路においては、沿線住民が持っている街路イメージには旧街道ならではの独自性と、土地利用形態や地域文化のよって育まれてきた独自性があることを図上で表現できた。旧街道型細街路の再生にはこれらの独自性を街路ユーザーに想起させる施策が必要と考えられる。

この回想分析は、旧街道型細街路など、歴史性を持つ街路再生について、沿線住民という「街路ユーザー」の視点を、設計者やまちづくりプランナーなど「デザイナー」の視点と融合するための一手法としての有効であると考えられる。

今後は、旧街道型細街路の独自性をさらに分析するとともに、街路ユーザーが街路に対して持っている潜在的イメージをどのように実施設計で表現するのか考えていきたい。

参考文献

- 1) 安藤直見, 八木幸二, 茶谷正洋: 都市中心部における街路空間のイメージ分布, 日本建築学会計画系論文集第497号, pp.155-162, 1997年
- 2) 平野勝也, 資延宏紀: 街路イメージ類型を用いた繁華街構成分析, 土木計画学研究・論文集, No.17, pp.533-540, 2000年
- 3) 讃井純一郎, 乾正雄: レパートリー・グリッド発展手法による住環境評価構造の抽出, 日本建築学会計画系論文集第367号, pp.15-21, 1986年
- 4) 亀谷一洋, 山中英生, 三宅正弘: 回想分析を用いた旧街道商店街の街路イメージの分析, 土木計画学研究・論文集 Vol.20no.2, pp.433-440, 2003年9月